

地区広報

かいぞう



現在の海蔵川



昭和30年頃の雪化粧の海蔵川

海蔵川物語

—今、海蔵川をさぐって—

私たちの住む海蔵地区を南北に二分し、日常生活にも古くから密接なつながりを持つ海蔵川は時代の移り変わりと共に変化をきているが、今も昔も変わらないのは、多くの人々が親しみを感じ、愛着を持ち川と共に生活をしてきたことではないでしょうか。

源流を鈴鹿山溪に発し伊勢湾に注ぐ海蔵川について昔から今までをたどってみました。この地に私たちの祖先が住み始めたのは、現在知られている範囲では弥生時代とされています。

海蔵の名の由来については次のような諸説があります。

◎海人蔵説

太古この地が海岸であった頃、浜辺で漁をする人々の蔵があった。

◎仏語説

全国各地に海蔵と冠する寺院が多いことから仏典より出た名。

◎海草説

古文書にカイソと記されている。これは海草を意味するところではないか。

◎貝を蔵する川説

止流の貝を含んだ山から流れ出る川。などとされています。

いずれにせよ海蔵の地が海に面していたことは事実であり、聖武天皇（七四〇年）伊勢の地へ行幸の際の歌に羽津志氏神社より南へ東阿倉川までの台地は三方を海へ突出した岬であったと詠まれています。

・「一一七一年（平安時代）館太郎貞康越中より来たり海蔵の野に一城を築く」とあり、海蔵の名が記された一番古いものとされています。

（海蔵小誌、菟野郷土資料館などの資料より）

海蔵地区の人口 総数 11,267 男 5,599 女 5,668 世帯数 3,843 (2月末現在)

編集・発行

海蔵地区社会福祉協議会・海蔵地区市民センター

私達のまちを流れる海蔵川は、春は桜まつり、夏にはいかだ遊びそして冬にはマラソン大会・堤防清掃と年間を通して人びとのふれあいの場となっている。



この「海蔵川」も
いざ、どこから
どこまでが
海蔵川なのか
.....
いつ、その名前が
つけられたのか
.....
川にかかる橋は
.....

十月二十二日、セーターを着ていると、汗ばむような陽気の中、広報部一同、海蔵川の源を目指して川沿いに車を走らせた。
立派な桜並木の堤防や川幅も、一歩進んで、東名阪の下をくぐると、田園の中ののどかな「海蔵川」川幅はぐっと狭くなり、ススキ、セイトカアワダチ草、雑草などに覆われ、川藻のある川底。
「えっ、これが「海蔵川」？」



菰野に入ると透き通るよつな川、小さなフナなどもおよいでいます。出発してから二時間。地図に書かれている「海蔵川」の源頭、干草地区。
脈々と山々が――？
一瞬、皆啞然となる。

一体、どこのひとしずくが「海蔵川」へ――？
全員、ゴム長靴に履き替え、笠岳のすそ野よりお墓を通って造成中のコンクリートの壁をよじ登って、松や栗の木、ススキやら身の丈ほどの雑草をやつとの思いで登り、幾つもの湧き水や、幾重にも横たわる倒木の間にも細かい流れが……源流だ！
鈴鹿山脈の笠岳、腰越ゴルフ場、千種城址あたりの落水とが重なり「海蔵川」となる。また、朝明深谷の流れが千草発電所を通り千草用水となり、これも「海蔵川」と合流する。

海蔵川にも歴史があり、しずかに流れる川面をみていると、昔そんなことがあったとは、思えないようにやさしくおだやかに流れている。

天災飢饉

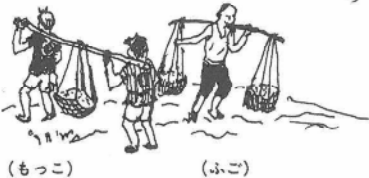
海蔵川も大昔は土地によって、川の呼び名もさまざまであった。川下から羽津川・海蔵川・下海老原川・川原須磨川・川原妻川などと呼ばれていたようだ。

朝明川の上流に属して水無瀬川が有り、豪雨出水の際には海蔵川に流れ込む水量が多くなり、下流川添の村は洪水の被害を受けること度々であった。そのため元文年代（一七三六―一七四一年）に四日市・浜一色・末永・東阿倉川・西阿倉川・野田・生桑・小杉・東坂部・西坂部・下海老原・上海老原・下鶴川原・川北・諏訪・池底・潤田などの十八カ町村協議の上、その防禦につとめたが、豪雨の際決壊すること多くて各町村の損害は莫大であったために千種村奥郷をなされる朝明川上流の堤防補強工事を、天明三年（一七八四年）各町村庄屋、年寄で『乍恐口上書』を郡奉行所に願ひ出し、享和二年（一八〇二年）に至り堅牢なる堤防（千間堤）を築いて大被害を免れるようになった。

洪水の後、堤防が破損する度に、村人は総動員で毎日各所にある小山を崩して、『ふご』や『もっこ』で土砂を運び補修をした。

東阿倉川の百間堤は慶長年間、東海道が開通してから後に坂部・小杉・垂坂および八郷の住民が東海道筋と四日市宿との交通の為、堤防を補強したもので、江戸前期の頃ではなにかと思われる。これに使用した土砂は西半分は東阿倉川の「ヘナ土」東は海蔵川の砂で築造してある。

東阿倉川の「ヘナ土」東は海蔵川の砂で築造してある。



(もっこ) (ふご)

—海蔵小誌、菰野郷土資料館調べより—

海蔵川にかかる橋

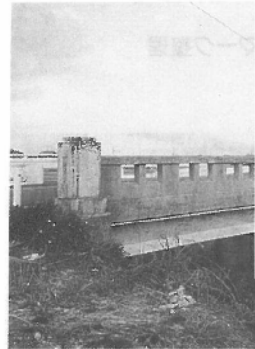
橋のごことご存じですか

山から村、村から街へ十九・四km。菰野町の千草を源とする海蔵川が伊勢湾へ流れ下る。そこには五十四もの大きささまざまな橋がかかっている。

主だった橋は上流から千種城跡近くの前坂橋、国道306号線の岡橋、椋の木橋、ミルクロードの松山橋、鶴川原小学校近くの前田橋、菰野東員線の新海蔵橋、県道上海老高角線の上海老橋、あがたが丘附近には丑谷橋、



菰野町川北・下村間の新海蔵橋



戦前の海蔵橋

百々橋、下海老橋、国道306号線の赤坂橋、東名阪道の新海蔵川橋、坂部が丘団地と三重団地を結ぶ代官橋、平成六年十二月に完成した野中橋、県道員弁四日市線の中倉橋、海蔵地区を流れる二・八kmには新海蔵橋、末広橋、近鉄軌道橋、海蔵橋がかかっている。そして河口から850mの新開橋、名四国道の三重橋で終わりになる。

ところで五十四の橋には同じ名前の橋が六組ある。1号線の新海蔵橋と菰野町川北・下村地区を結ぶ昭和十一年建造の石造りの海蔵橋。すぐ下流の新海蔵橋と末永（清水）の新海蔵橋。その他前坂橋、岡橋、赤坂橋、中倉橋が同名の橋である。新旧の橋が並び、地区発展のシンボルのようだ。夏には地区待望の歩道橋「しらすぎ橋」が完成する。

なつかしい	(小学校通学当時)
海蔵川の思い出	森嘉門

末広橋から上流に石橋、海蔵橋の下流に板橋があり、末広橋は橋幅二mの木橋で、傘をさして川床に飛び降り喜んでいました。

海蔵川を用水源としていた末永、阿倉川、三ツ谷、川原町に末広橋の上流で三カ所、下流で二カ所、堰を設け堤防下に暗渠を作り田畑に導水していた。

末永の一の堰から飲料水を取水していたほか、用水を水車の動力源として利用し、左岸に精米所、製油所三戸があった。橋の南側には海蔵村役場と駐在所が、堤の上の東方は墓地と火葬場があった。

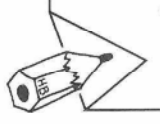
下流左岸に水車、右岸外側に製油所、養鶏場あり、その東は東海道で、町並みの観を呈していたが、他はすべて田畑で、堤の上から眺めた春の菜種の花、秋の稲のみよりは全くの絶景であった。

堤の天幅は二mぐらい。松林で、笹・藪・柳が群生し、イタチ、タヌキ、キツネが、川にはウナギ、ハゼ、ナマズ等、川魚がたくさんいた。

阿倉川の友達と暗くなるまで遊び、末広橋を渡るとタヌキが小さきみに身を震わせながら見ているので気持ち悪く、また墓地のそばを通るので一層不気味。何かに追いかけれないかと家に駆け込んだ覚えがある。家では「遅くまで遊んで」と叱られた。

海蔵川にはそんな思い出がある。

(森嘉門氏 大正四年海蔵小学校卒業 平成五年九十才で亡くなる一年前に書かれた手紙の原文から抜粋させていただきました)





▲きれいになって気分すっきり いぬなし清掃

実践にいかせるよう
福祉体験教室

8/6



わがまちの小さな ボランティアたち



▲海蔵小のベルマーク委員も加わって
月一回のベルマーク整理



▲独居老人を招いて心をこめたおもてなし
地区文化祭 11/6

カメラがとらえた地域活動

これはごく一部です。
まだまだいっぱいあるけれど
わがまちの子供達は、いつも
輝いています。



▲グランドゴルフ大会 6/26

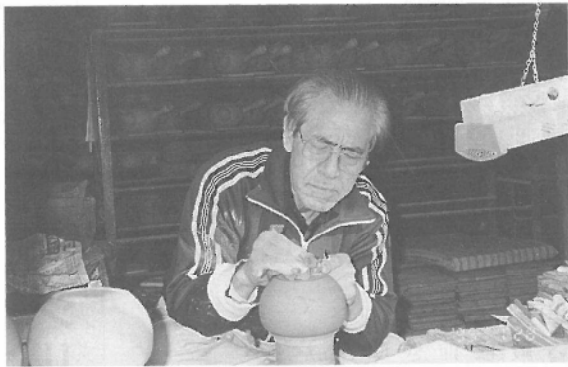
川あそびに
ちなんで、
舟の工作
コンクール

8/20



▲毎年ご苦労さま
海蔵川堤防清掃 3/5

急須の生地づくり50年



わがまちの誇り 笹岡嘉久造さん(万古町)

伝統産業の四日市万古焼を支える優れた職人を顕彰する「伝統産業技術マイスター」に、技術保存と後継者育成のため市が、昨年度に新設された認定制度の最初に選ばれ、表彰されました笹岡さんをお訪ねしました。

祖父の代から続く職人さん。十六才で家業の生地作りを始められ、惜しくも空襲で父親を亡くされ、その後、他の工場で十二年間の修業も含め、五十年もの永い間「生地づくり」に頑張ってきました。

一步仕事場へ入ると、ところ狭

マイスターとはドイツ語で優れた職人や、歌手などに贈られる称号で「名人」とか「親方」などの意味があります。

しと急須の生地が棚に並べられ、土から製品になるまで全部手作業とのこと。ロクロをまわされる笹岡さんの傍で、妻の和子さんが細かい作業をされていて二人三脚とは、まさにこの事でどちらが欠けても仕事が成り立たないと言われ、夫婦の仲むつまじさがにじみ出ていました。

すばらしい技術とお人柄の笹岡さんに大きな拍手を贈ります。



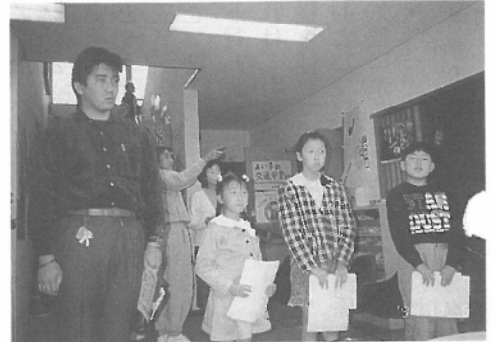
初の万古焼『伝統産業マイスター』に

(平成六年四月十三日)
四日市市長表彰

わたしたちの街のエキスパート



▲桜まつりの写生大会 4/16



▲国際家族年 絵・作文 11/6



▲第3回ウォークラリー大会 11/23



▲第6回海蔵川マラソン大会 2/5

各種イベントで
表彰されたみなさん

「海蔵の寺社」

シリーズその⑤



神明社

末永の「神明社」をご紹介します
ていただきます。
(祭神大日靈貴尊 宮司横山尚弘氏)

神明社は、約四百六十年頃前に
建立されたといわれています。伊
勢の神宮の分霊社で、古くから「齒
の神様」として奉られています。
拜殿の左右には、昔から保存さ
れている「力石」があり、それぞ
れ約六十kg・約八十kgあります。
一度、持ち上げられてはいかが
ですか。

毎年三月十日は春季大祭。
七月の第二日曜日の夏祭りには

子供獅子、神輿、夜には行灯が奉
納されます。

秋季大祭は九月十五日で参拝者
には赤飯が配られます。

大晦日にはかがり火を炊き御神
酒もふるまわれ、沢山の参拝者で
元旦を迎えます。

ふり返れば、昭和二十年六月十
八日、四日市大空襲にあい御神殿
は焼失。拜殿社務所は被災をまぬ
がれ、その後修復され社務所と共
に五十年。奉賛会の皆様の力で護
られています。

奉賛会会長 森 貞雄

雑感



今年で戦後半世紀

戦没戦
戦者となられた
犠牲者のご冥福を心より
お祈り申し上げます。

柱	海蔵	市全体
戦没者	161	4945
戦災者	31	808

(遺族会資料)

昭和二十年の四日市空襲で市
街地の大半が焼失し、その復興
のきざしとして二十七年に大博
覧会が開催された。その後、旧
村合併や住宅団地造成により、
現在の人口は、当時の約三倍に
なった。この三月で十年になる
非核平和都市宣言と戦後五十年
の今年、各種事業がもたれる。

(海蔵地区市民センター)

私たちの街ではこんなことやっています。

珍 プレィー・好 プレィーに歓声



野田グラウンドゴルフ大会

が計画し実行された。

今回で三回目。

参加者は百十六名と地区の大半
の人びと。

七才から八十才までと年齢幅も
広く、なかには一家揃い組もあり

「あのお嫁さん、この人？」

「〇〇さんのお孫さん、大きくなっ
たわねえ」と同じ町内でも久しぶ

りに顔を合わす人もあって、和気

さわやかな秋晴れとなった十月
二十三日、九時より野田二丁目の
広場で『親睦グラウンドゴルフ大
会』が行われた。

これは、町内相互の親睦と健康
の増進をはかり、明るい町づくり
を目的としています。年齢に関係
なく気軽に楽しめるので、家族揃
って秋の一日を有意義なものにし
ようと、野田スポーツクラブの方々

あいあいとした雰囲気。

お昼にはスポーツクラブの女性
の皆さんによる、手作りのちらし

寿司、うどんに舌鼓。

「今回は少し打数が多かったの
で、来年は頑張らなくては」

と次回を楽しみにしている声も聞

かれる中、成績発表と表彰式が行

われ、よごやかな一日を過ごした。

編集後記

静かに流れる川。季節それぞれ
の粧いで、異なった姿を見せて
くれる川。地区のシンボル。
何故この川の名前が海蔵川な
のか。などなど……『海蔵川』を
特集してみました。

同じ名前の橋があったり。往
古は流域の土地とちで呼び名も
違っていたり、度重なる洪水は、
多くの人びとに被害を与えたり
と、この川の意外な素顔を、垣
間見た想いもあります。

(広報部員一同)